

(資料)

REFRANERO ESPAÑOL (44)

スペインの諺辞典

Bernardo Villasanaz*(ed.)

新 井 藍 子**

1581. Tanto se peca (o pierde) por carta de más como por carta de menos.

トランプの数が余っても 不足しても
よくない (負ける)

- 物事の程度が過ぎるのも、不足するのもよくない、過不足は、われわれにとっては頭痛の種となる。(スバルビィ)
- 先に見てきた “Tanto es lo de más como lo de menos. 過ぎたるは猶及ばざるが如し” (物事の程度を超えたものは、足りないものと同じようによくない—筆者の諺辞典、諺 1576 を参照) と同義の諺である。
- 例題：ドン・キホーテ第二部 37 章、公爵夫人が夫である公爵にたずねた事に対して、直ちに返事をしたサンチョにドン・キホーテは、誰がそのような余計な口出しをさせるのかと詰問したことにサンチョは、標題の諺で答える，“...; y en estas cosas, según he oído decir a vuesa merced, tanto se pierde por carta de más como por carta de menos;... それにね、おめえ様が言いなされたのを聞いただが、カルタは数が余っても不足しても負けになるだ...” (続編二、永田寛定訳) 注：ここでは、

* Facultad de Humanidades. Universidad de Fukuoka.

** Profesora de español en la Universidad de Fukuoka (Facultad de Humanidades).

サンチョが公爵夫妻に対して礼儀に叶っていないとドン・キホーテが叱責したのだが、サンチョは“礼も過ぎれば無礼になる”（礼儀は大切だが、丁寧すぎるのはかえって相手に無礼をすることになるから、礼儀は程度をわきまえてするのがいい—故事ことわざ活用辞典）という意味で諺を口に出したのである。—筆者

- ある意味では、サンチョが言ったことは正しい。こちらの諺の“礼過ぎれば諛^{へつら}いとなる”というように、度を過ぎた礼儀は相手のご機嫌とりになるだけで、いい結果にはならないし、相手に対して“慇懃無礼”，“礼は却って無礼の沙汰”（礼儀と思って遠慮をし過ぎると、かえって失礼になる）となってしまうかもしれない。

1582. Tanto vales cuanto tienes.

人は 富を持てば持つほど 値打ちがある

- 社会が形づくられた時から、権勢、尊敬を得るのは、財宝しだいであった。故に、セルバンテスは、この世には二つの家柄—つまり、金を持っているか、持っていないかという—しか存在しないと行ったのである。（スバルビィ）たいていの場合、人というものは、財産を持っているか持っていないかで評価される。（バロス）注：セルバンテスが言ったことに関しては、例題1を参照して下さい—筆者
- この諺は、人の価値を判断する基準は、富のみであると言っている；異表現には“Tanto tienes, tanto vales. 人は、持てば持つほど値打ちがある”，“Tanto vales como tienes: si no tienes más que cien reales, no más de ciento vales; o no vales más de cien reales. 人は、持っている分だけの値打ちしかない；もし百レアルしか持っていないならば、百レアルの値打ちしかない”（コレアス諺集），“Tanto vales como has, y tu haber de más. 人は、持っている分と、更に余分に持っている分の値打ちがある”（後半の部分はユーモアを交えて付け加えたもの—コレアス諺集），“Tanto tienes cuanto vales. 人は、値打ちがあればあるほど、富を持てるようになる”などがある、また、類義には“Fortuna te dé Dios, hijo, que el saber nada te vale. 息子よ、神がおまえにどうか、財産を授けて下さるように！知識は何の役にも立たないから”，“Un asno cubierto de oro parece mejor que un caballo enalbardado. 金で飾ったロバは、荷鞍を付けた馬より、立派に見える”，“Las riquezas son poderosas de soldar muchas quiebras. 富は、ひびだらけの物をもつなぎ合わせる”，“El mejor cimient y zanja del mundo es el dinero. 世界で最良

の土台，最良のいしずえは，金である”，“Las necesidades del rico por sentencias pasan en el mundo. 金持ちがするバカは，それでよしとして世の中にまかり通る”などがある。

- 例題 1：ドン・キホーテ第二部 20 章，金持ちのカマーチョの婚礼の祝宴で，たらふくごちそうにありつけたサンチョは，カマーチョの恋の敵である貧乏人バシーリオを次のようにこきおろす，“...que tanto vales cuanto tienes, y tanto tienes cuanto vales. Dos linajes solos hay en el mundo, como decía una agüela mía, que son el tener y el no tener; , antes se toma el pulso al haber que al saber:.... てめえの値打ちはてめえのふところ，てめえのふところはてめえの値打ちじゃねえか！わしの祖母さまが言ったとおり，この世にゃ家柄も二つしきゃねえ，持ったのと持たねえのとだ。..... ものを知っているよりも，持ってる方を大騒ぎするだよ...” (続編一，永田寛定訳)
- 例題 2：ドン・キホーテ第二部 43 章，島の太守が読み書きが出来ないのは，人々に対して体裁が悪いというドン・キホーテに，自分は太守であり，金持ちになるつもりだからと，サンチョはいくつもの諺を並べて反論するそのうちの一つ，“..... No, sino haceos miel, y paparos han moscas; tanto vales cuanto tienes, ... 蜜のように甘え人間と見られるがいい，蠅がたかるだけの話よ。おめえの値打はおめえが持つものだけさと，...” (続編二，永田寛定訳)

1583. Tejado de un rato, labor para todo el año.

手間仕事の屋根は 一年かけての労働

- 急いでぞんざいにした仕事は，しょっちゅう修繕が必要になる。(バロス)
- 自分でしても，誰か職人に頼んでも，ていねいにされなかった仕事は度々修理，修繕が必要となる。こういう諺もある；“Tarde, mal y nunca son tres malas pagas. 三つの悪い対応は，遅い，ぞんざい，無視である”直ぐにしてもらいたい仕事（修繕）を頼んだら，時間がかかった，してもらった仕事はぞんざいであった，引き受けてもらえなかった，ということであろう。

1584. Ten buen tiempo cuando te diere de cara al viento.

向かい風には 用心深く進め

- 困難な時期には、慎重になれというたとえ。(パロス) そうすれば幸運が訪れるかもしれない。(コレアス)
- 類義の諺には“A mal tiempo, buena cara. 悪天候には、機嫌のいい顔で”(逆境の時には、それを乗り越えるために元気を出せ—パロス)がある。
- 日本の諺には“禍福己による”があるが、幸運や不運は、本人の心掛けしだいどころ変わっていく故に、不運な目に会っている時は、落ち込むのではなく、それを乗り越えるために、慎重に振る舞い且つ氣力を奮い起こすことが大事であるとスペインの諺は教えてくれる。

1585. Ten cuidado de ganar, que tiempo queda para gastar.

もうけるのは一生懸命に 使う時間はたっぷりあるから

- 人は、各々が社会で自身の地位を築くように精を出すべきである、そうすれば、心配なく人生を送ることができるから。(スバルビィ)
- “ganar—もうける”には、次のような意味がある；“(地位, 支持, 荣誉, 地歩などを) 得る, 獲得する, 手に入れる, また, (金を) 稼ぐ, もうける等” “gastar—使う”には、その他に次のような意味がある；“費やす, 消費する, 浪費する, すり減らす, 消耗する等” これらの韻を踏む二つの単語はここでは、対照的に用いられている。
- かつてなかったような長寿の社会では納得のいく諺である。明日は何が起こるかまるっきり予測できない社会に生きている老人が頼りにできるのは、金であろう。働くことができるうちは一生懸命に働きなさい、そして金を稼ぎなさい、それを使うのに充分過ぎるほどの老後が待っているからということであろうか。

1586. ¿Tenemos hijo o hija?

うまくいったの それともうまくいかなかったの？

- ある事がうまくいったのか、うまくいかなかったのかを尋ねる時に用いる表現。(スバルビィ)

- 異表現には、コレアス諺集に“Qué tenemos, hijo, o hija?”がある、コレアスによると、これは相手に“Sí o no. はい、それともいいえ, bien o mal. いいの、それとも悪いの”と同じように尋ねている。
- 例題：セレスティーナ第5幕、メリベアの家交渉に出かけ、帰ってきたセレスティーナにカリストの使用人が質問する，“...dime, por Dios, con qué vienes. Dime si tenemos hijo o hija. Que desde que dio la una te espero aquí, ...どうか言っとくれよ、お前さんどういふことでやって来たんだい。いったい結末はいいのか悪いのか言っておくれよ。俺は一時を打ってから、ここでお前さんを待っているんだけど、...”(魔女セレスティナ、大島正訳)注：“si tenemos hijo o hija”は、“si traes noticias buenas o malas. いいニュース、それとも悪いニュースをもってきたの”と同じ意味の言い回し表現—Bruno Mario Damiani, La Celestina, Cátedra.

1587. Tiempo (El) cura al enfermo, que no el unguento.

歳月が 病人を治すのであって 軟膏ではない

- 医者や薬の効果に不信感を抱いた時に言う。(バロス)
- コレアス諺集には、次のような異表現がある；“El tiempo cura al doliente, que no el unguento. 歳月が、患者を治すのであって、軟膏ではない”，また，“El tiempo-時，歳月”に関して“El tiempo cura las cosas. 歳月が、物事を回復してくれる”，“El tiempo es inventor de las cosas. 歳月は、物事の考案者”，“El tiempo es sabio y el diablo viejo. 時は、賢者であり、且つ年寄りの狡猾者”，“Tiempo ni hora no se ata con sogá. 時は、一刻も綱で縛っておけない”などの諺がある。
- 標題の諺に類似しているのには“薬より養生”，“一に養生二に介抱”，“一に看病二に薬”などがある、いずれも病気を治すには、薬よりも心のこもった看病とかゆっくりと時間をかけて養生することが大事であると言っている。

1588. Tiempo pasado siempre es deseado.

過ぎ去った時は いつでも望まれる

- 過ぎ去った時は、取り戻せない故に切望されるのであろう。苦しかったこと、悲しかったことなどは、もはや長い歳月の間には消え去って、喜びなどの楽しい思いが胸にあふれてくるのである。

- 同義の諺には “Cualquier tiempo pasado, es mejorado. 過ぎ去った時は、すべてよし” (筆者の諺辞典, 諺 325 を参照) がある。この諺は、スペインの詩人, Jorge Manrique (15 世紀) の “Cualquiera tiempo pasado fue mejor. 過ぎ去った歳月は、すべてもっと良かった” から来ている。
- コレアス諺集には、次のような反義の諺が見られる; “Tiempo pasado traído a memoria, da más pena que gloria. よみがえってきた過ぎ去った歳月は、よろこびよりむしろ苦痛をもたらす” (楽しむための健康とか若いころのエネルギーを失った年寄りにはそうであろう—コレアス)
また、同諺集には、“El tiempo-時, 歳月” に関して, “El tiempo todo lo cubre; o lo encubre; o lo descubre. 歳月は、全てを隠し、全てを暴く”, “El tiempo todo lo cura y todo lo muda. 時は、全てを癒し、全てを変える”, “El tiempo todo lo trae y todo se lo lleva. 時は、あらゆるものを持ってくるし、また、あらゆるものを持っていってしまう”, “Tiempo y viento, mujer y fortuna, presto se muda. 時と風, また、女と運はすぐ変わる” (異表現 < Mujer, viento, tiempo y fortuna, presto se muda. 女と風と時と運は、すぐ変わる > がある—筆者の諺辞典, 諺 1003 を参照)
- 日本の諺には、老女が過去に男性からもてはやされたことをなつかしむ “鶯鳴かせたこともある” (かつては、梅の花が鶯をとめて鳴かせるように、男たちから求められた—故事ことわざ活用辞典) がある。

1589. Tiene ventura el que la procura.

幸運を願う者が 幸運を手に入れる

- 幸, 不幸は運によるものではなく、人の行いが招くものである。
- 類義には “A Dios rogando y con el mazo dando. 槌をふるいながら神に祈れ (天は、自ら助くる者を助く)” (人は、努力すれば神に助けてもらえるが、怠けていながら神の助けだけを望んではならない—筆者の諺辞典, 諺 15), “Ayúdate y te ayudaré. 神は、自ら助くる者を助く” (他人の好意ばかりをあてにせず自ら努力せよ—同諺辞典, 諺 121 を参照) などがある。不運を他人や環境のせいばかりにする者にとっては耳の痛い諺であろう,
- 標題の諺と同義には “禍福己による”, “禍福門なし唯人の召く所” (春秋左氏伝—不運, 幸運がやってくるのには、初めから定まった門があるのではなく、悪をなせば禍

いがくらし、善をなせば福がくる、幸不幸は結局その人の行いによる—故事ことわざ活用辞典) などがある。本人の心掛け次第で幸福になったり、不幸になったりするということ。

1590. Tierra (La) do me criare, démela Dios por madre.

神よ 育った土地を われに母として 与えたまえ

- なぜなら、“La tierra ajena quema. 見知らぬ土地は、(農作物を) 枯らす”(よそ者であるというのは、良い条件ではない—バロス) からである。生まれ育った土地なら、お互いに顔見知りということで受け入れられ、生活するためには何かと都合がよい。(バロス)
- 類義には“La tierra que el hombre sabe, ésa es su madre. よく知っている土地が、母となる”(人間の生活の基盤であるということ—筆者) がある。

1591. Tierra en frontera y viña en ladera.

正面の土地 斜面のブドウ畑

- ブドウがよく実るためには、家の真正面に農園があり、且つ南向きの斜面にブドウ畑があることである。(コレアス) 農園は家の近くにある方が都合が良いし、ブドウの木は南向きの斜面に植えるのがいい。(バロス)
- 畑に関していくつかの諺が次のようにある、“La tierra estéril que no se cubre de yerba, no dará pasto a vaca ni oveja. 雑草に覆われていない肥沃な土地は、牛や羊に牧草を与えない”(故に、畑が荒らされないですむ—筆者)、“La tierra morena, buen pan lleva: la blanca, ni yerba ni nada; o la blanca cardillos. 褐色の土地は、美味しいパンをもたらす、白っぽい土地は、牧草も何にももたらさない; 或は、白っぽい土地は、キバナアザミをもたらす”(Cardillo-キバナアザミの葉は、茹でて食べられる、筆者)、“La tierra negra, pan lleva; la blanca, ni pan ni paja. 褐色の土地は、パンをもたらすが、白っぽい土地は、パンも麦藁ももたらさない”など。

1592. Tira el buey, tira la vaca; más puede el buey que la vaca.

牛も乳牛も引っ張るが 牛のほうがもっと引っ張る

- 妻が夫と喧嘩しようとしている時、或は、勢力がある者がより力の弱い者をねじ伏せ

ようとしている場合に良い教訓となる諺である。(コレアス)

- “Buey” は、“去勢してある雄牛”，“vaca” は、“雌牛” のこと、また、“buey” には、隠喩として、“知恵の足りない愚かな人” という意味もある。この諺の中の去勢牛は、日頃から妻に馬鹿にされている夫、或は権力のない庶民の姿として捉えることができるであろう。
- 類似の日本の諺には、どんなに小さい弱い者でも軽視できないというたとえの“一寸の虫にも五分の魂”，“鱒ごまめでも尾頭付き” などがある。

1593. Tirar la piedra y esconder la mano.

石を投げて 手を隠す

- 目の前ではへつらい、陰では害を与える者をいう。(コレアス) 人の目を逃れて害を及ぼす者をたとえていう。(パロス)
- コレアス諺集には、ニュアンスは少し異なるが類似の表現で “Tirar la piedra con la mano ajena. 他人の手で石を投げる” (間接的に人を傷つけることのとえ—筆者) がある。
- 上記のコレアスの解釈による偽善者のたとえには、すでに見てきたように次のような諺がいくつかある；“El gato de Marirramos halaga con la cola y araña con las manos. しっぽでじゃれつき、爪でひかくマリラモスの猫” (筆者の諺辞典、諺 613 を参照のこと)，“Palabras de santo y uñas de gato. 聖人の言葉に、猫の爪” (同諺辞典、諺 1245 を参照のこと)，“Palabras dulces y melosas, a las veces traen ruines obras. 甘く優しい言葉、卑しい行い” (同諺 1245 を参照)，“Piel de oveja, carne de lobo. 羊の皮の下には、狼の肉” (同諺辞典、諺 1317 を参照のこと) など。
- 日本の諺にも、次のように裏表のある人には注意せよとおしえている諺がある；“旨い物食わず人に油断すな”，“笑う者は測るべからず”，“旨い物は腹にたまる” など。

1594. Toda es buena gente, mas mi capa no aparece.

みんな善人だが わたしのマントが見つからない

- みんな善人そうに見える人の中に悪党がいることのとえ。(コレアス諺集) この諺は次のような状況に使われる。ある出来事に対して誰に責任があるかを調べたが、結局分からなかった。何故なら皆がそれぞれ自分の有利になるような言い訳を述べ立て

たので。(スバルビィ諺辞典)

- コレアス諺集には、次の異表現 “*Toda es buena gente, mas mi capa no parece; o todos son honrados.* みんな善人だが、わたしのマントが出てこない、或は、みんな正直者だが、...” が、また、スバルビィ諺辞典には “*Toda es gente honrada, o todos son buenos, mas mi capa no parece.* みんな正直者だが、或は、みんな善人だが、わたしのマントが出てこない” が収録されている。
- “*Aparece*” も “*parece*” も同義で “現われる、出現する、(紛失物が) 出てくる、etc.” の意味。

1595. Todo el monte no es orégano.

すべてが たやすいことばかりとは 限らない

- 期待しているようには、或は、計画通りにはいかないのではないかという不安、危機を表わす口語的表現。
- 異表現には、“*No es todo el monte orégano.* いつもよい時ばかりとは、限らない” (筆者の諺辞典、諺 1097 に詳細な説明があるので参照して下さい)、“*No todo el monte es orégano.* 同訳”、“*No es orégano todo el monte.* 同訳” などがある。
- コレアス諺集には、否定語 “no” をとった次の肯定文 “*Todo el monte orégano./ Todo el monte se le hace orégano./ Todo el monte es orégano.* すべてが思い通りにいく” (どんな障害もなくうまくいく時に使う—コレアス) が、収録されている。

1596. Todo es bueno antes de hacello.

おこなう前には すべては たやすい

- 思いつきで何かを始めようとする、その利点ばかりを考えるから。(バロス)
- コレアス諺集には、次の異表現 “*Todo es bueno antes de ser hecho; o antes que se haga.* 同訳” (何かしようと思っていることに利点、有望さがある時に言う—コレアス) が見られる。
- “*Hacello*” は、“*hacerlo* の古語であるが、この場合は *todo, bueno* に韻を合わせている”
- 夢想と現実の間には、大きなギャップがあるということ。しかし、楽観的に物事をとらえて着手することも大切である。

1597. Todo es como Dios quiere, mas no como debe.

すべては しかるべきではなく 神のお望みどおりに

- たとえ人間によってしかるべき正義が行われないことがあろうとも、物事はそのまま甘んじて受けとめなければならない。(バロス)
- コレアスは、次のようにコメントしている；“分別ある者が不満屋をなだめながら<すべては神のお望みどおりに>と言った，すると不満屋がそれにこう付け加えた<しかるべきではなくね>，言いたかったのは<人間というものは，うまく治めることができないので，あらゆる世紀に渡ってあらゆる場所で争いが絶えず，また，ふさわしくない者が財産を持ち，指揮権を握っている>。
人間の悪徳を考えると，(この諺は) こう言い替えたほうが意味がよく分かるであろう<Todo está, o va, como Dios lo consiente, mas no como debe. すべては，しかるべきではなく，神が容認するようにある>。”
- この諺は難しい問題を提起している。人は，理解を超えた悲惨な出来事が起こると，この世には神も仏もないのかと嘆き，それらへの信仰を捨ててしまうということがよくある。しかし，少なくとも旧約聖書では神と人との関係，及び役割は明確である。随所にそれは述べられているが，一番はっきりしている箇所はシラ書の“Libertad del hombre—人間の意志”であろう；“Dios creó al hombre al principio y le dio libertad de tomar sus decisiones. 主が初めに人間を造られたとき，自分で判断する力をお与えになった。その意志さえあれば，お前は掟を守り，しかも快く忠実にそれを行うことができる。(15-14-16) El a nadie ha ordenado pecar, ni deja sin castigo a los mentirosos. 主は，不信仰であれとは，だれにも命じたことはなく，罪を犯すことを，許されたこともなかった。(15-20) Dotó a los hombres de razón y juicio, y les mostró el bien y el mal. 主は，悟りをもたらす知識で彼らを満ちし，善と悪との区別を示された。(17-7-8)”人間がこの世で罪を犯したり，不正を行うのはあくまでも人間の自由意志なのである。聖書では，このように罪を犯す者に<主に立ち帰れ>と度々警告を与えている“Vuélvete a Dios y deja el pecador; ora en su presencia y disminuye tus ofensas. Vuélvete al Altísimo, apártate de la maldad. 主に立ち帰り，罪から離れよ。御前で祈り，罪を犯す機会を遠ざけよ。いと高き方に立ち戻り，不正に背を向けよ”(シラ書 17-25-27)

1598. Todo es menester: sopas y sorber.

両方必要である：スープをすすると 息を吸うのと

- ある一つの事柄に関して、丸っきり反対で異なった両側面に注意を払う必要がある時に用いられるたとえ。(バロス)
- この反対の諺“Soplar y sorber no puede ser. 息を吐くのと、吸うのは同時にできない”(同時に二つの相反することはできない—バロス)は、すでに筆者の諺辞典、諺 1553 で取り上げられているので参照して下さい。それによると、“Soplar y sorber...”の言い方だけでなく、“Sopas y sorber no puede ser. スープをすすると息を吸うのは、同時にできない”という表現の諺も巷では、流布されているようである。それを裏づけるのが標題の諺であろう。ここでは“Sorber”ではなく“Sopas”の表現が用いられている。コレアス諺集にもこの言い方のみが見られる。反対の意味の“...no puede ser...同時にできない”の方は、コレアス諺集には、二つの言い方“Soplar y sorber...息を吐くのと、吸うのは...”と“Sopas y sorber...スープをすすると息を吸うのは...”が収載されている。イリバレンによると、前者が本来の正しい表現で、後者は混同されてできた合成らしい。見出しの諺から推測できるのは、どうも混同された方がこのように定着したらしい。

1599. Todo ha menester maña, sino el comer, que quiere gana.

あらゆる事には技が必要 食べる事だけは
欲求が必要

- 目的を達成するためには、忍耐と巧みなわざが必要であるが、食欲のない人にはどんな方法を使っても食べさせることはできない。(スバルビィ諺辞典)
- 次の一連の諺がこの諺の主旨を裏づけてくれるだろう；“A buen hambre no hay pan duro. ひもじい時に、まずい物なし”(筆者の諺辞典、諺3を参照)、“La mejor salsa es la hambre y buenas ganas. いちばんおいしいソースは、空腹と食欲”(同諺辞典、諺923を参照)、“A mucha hambre no ay pan malo. 空きっ腹に、まずいパンはない”(宝典、コバルビアス)
- 食べることだけではなくて、あらゆる事を成功に導くものはまず第一に強い意欲、成し遂げたいという欲求であろう。

1600. Todo lo nuevo place, y lo viejo satisface.

新しいものは喜びを与え 古いものは満足させる

- 新しいものは、誰でも珍しいのでうれしく思い、古いものは、よく慣れているので満足感を与える。(パロス)
- 異表現には “Todo lo nuevo place, aunque sea contra razón. 新しいものは喜びを与える、道理には反するが” (移り気が常に新しいものを求める—パロス) がある。
- 日本の諺は、標題のスペインの諺と同じように公平に両者を賛美している；新しいものは美しく、気持ちがいいという “女房と畳は新しい方がよい”, “女房と菅笠は新しい方がよい”, “女房と茄子は若い方がよい”, また、古ければ古いほど年季が入って味がよくなるという “女房と鍋釜は古いほどよい”, “女房と米の飯には飽かぬ”, “女房と味噌は古いほどよい” などがある。これらの諺は、両者の意味は正反対なのに全て女房をわれわれに身近なものにたとえていてなるほどと納得させてくれる。諺の面白さはこのように卑近なたとえで言い表すことであろう。

1601. Todo lo puede el dinero.

金は 何でもできる

- 金の威力はとてつもなく大きいことをいう。
- コレアス諺集には、異表現 “Todo lo puede el dinero, el amor. 金と愛は何でもできる”, “El dinero todo lo puede y vence. 金は何でもできるし、何でも打ち負かす” などが見られる。
- 同義の諺は次のように多数ある； “El dinero es caballero. 金持てば殿様” (その他いくつかの異表現がある、筆者の諺辞典、諺 420 を参照して下さい), “El dinero hace bailar al perro. 金が犬を踊らせる”, “Dineros son calidad. 金は威光の元”, “No hay cerradura, si es de oro la ganzúa. こじ開け道具が金なら、閉める鍵はない” (同諺辞典、諺 1112 を参照), “No hay lugar tan alto que un asno cargado de oro no suba. 黄金を積んだロバが、登れぬほどの高いところはない” (同諺辞典、諺 1123 を参照) など。
- 例題 1: セレスティーナ第 3 幕、情熱の虜になった青年に美しい姫をとりもつことで金もうけを企んでいるセレスティーナのせりふは、次のようにいくつかの諺で語られ

る, “Todo lo puede el dinero, las peñas quebranta, los ríos pasa en seco; no hay lugar tan alto, que un asno cargado de oro no le suba. 人間万事金の世の中さ。お金は岩をも砕き, 乾いたままで川をも渡る。黄金を積んだ驢馬に登りきれぬほどの高いところはないもんよ。” (魔女セレスティナ, 大島正訳)

- すでに見てきたように, この世の中の事は金さえあればどうにでもなるとい主旨のことわざが多数ある; “金は威光の元”, “金が物言う”, “金さえあれば飛ぶ鳥も落ちる”, “地獄の沙汰も金次第”, “成るも成らぬも金次第”, “知らぬ道も銭が教える”, “持った前にはつくばう” など。

1602. Todo pierde sirviendo sino el hombre, que gana en extremo.

使えば使うほど あらゆる物は すり減るが
人だけは 限りなく 進歩していく

- 物は, 使えば使うほど消耗していくが, 人というものは, 身を挺して生きていくうちに賢くなり, やる気がますます出てくるものである。(バロス)
- 日本の諺の“老馬の智”, “年寄りの言う事と牛の鞭しりがいは外れない”。“老犬虚に吠えず”, “亀の甲より年の劫ことう”などが, 見出しの真意を巧みなたとえを使って言い表している。
- そうありたいものであるが, 年をとればとるほど頑迷になり愚かになっていく者も多数いる。“年寄りと釘頭ことうは引っ込むがよい”などと言われないように精神的に常に成熟していきたいものである。

1603. Todo se andará si la vara no se rompe.

杖が折れなければ 全てを辿れる

- 短気な者に対して慌てるな, そうせっかちになるなとおしえている。
- バロスによると, この諺は, 次のお話しから来ている; “父親が息子の兄のほうを棒切れで叩いていると, それを見ていた小さい弟がまだ叩いていない箇所を父におしえた。すると, 父が <Todo se andará si la vara no se rompe. 急ぐことはない, 杖が折れなければ, 全部を辿れる>と答えた。”
- コレアス諺集には, 次の二つの異表現が収載されている; “Todo se andará, que la calle es larga. 急ぐことはない, 道は長いから全てを辿れる” (と, 刑執行人が, 一

カ所ばかり笞打たれて痛さにうめいている囚人に言った—コレアス)，“Todo se andará, si el palo no se quiebra. 急ぐことはない、棒が折れなければ、全てを迎える”（妻の頭を叩いていた夫に向かってある人が、よその場所を叩けと言ったのに対して、夫が答えたのが上記の諺である—コレアス）

- 同義の諺には “Hay más días que longanizas. 急ぐことはない、日にちはたっぷりある” がある。

1604. Todos los cojos son amigos de correr y saltar por su falta disimular.

欠陥を隠すために どんなびっこも
走り 飛び跳ねる

- あらゆる人間は、自分の欠点を隠すために同じようなことをする。(バロス)
- 無知な者は、知ったかぶりをするし、年を取ると年寄りに見られないように若作りをしたり、若々しく振る舞ったりする。臆病で気が小さい者は、弱い者に対して、威張ったり、威丈高に振る舞ったりして自分のひげ目を隠す。貧乏人は金持ちのふりをする。
- 類義の日本の諺には “吠える犬は噛み付かぬ”，“鳴く猫は鼠を捕らぬ”，“能ある鷹は爪隠す” などがある。

1605. Todos los días olla, amarga el caldo.

連日のナベ料理は スープを苦くする

- どんなに面白いことでも、何回も繰り返されると飽き飽きするものである。(スバルビィ)
- 同義の諺には “Todos los días perdiz, cansa. 連日のシャコは、飽きる”，“Cada día gallina, amarga la cocina. 連日のトリ肉は、料理を苦くする” などがある。
- どんなごちそうでも毎日同じものが続けば嫌気がさしてくる。そこから何事にも変化をつけて飽きないようにし感覚を研ぎすますことが大事であるということ。ずばりそれを謳う諺に “Entre col y col, lechuga. キャベツとキャベツの間にレタスを植えよう”（飽きないようにいろいろと物事をまぜて変化をつけることが大事である、筆者の諺辞典、諺 561 を参照）

1606. Todos los duelos con pan son buenos.

全ての苦労も パンがあれば 楽ちん

- 食べていければ、苦労はたいしたことはない、或は、難儀なことでも利益があれば苦労のしがいがある。広義の意味では精神的な苦痛も物質的に慰められるものがあれば、まだ我慢できるということ。
- コレアスによると、見出しの諺はかなり古くからあるらしい、また、コレアス諺集には次のように多数の異表現がある；“Todos los duelos con pan son menos. あらゆる苦労もパンがあれば、たいしたことない”，“Los duelos con pan son menos. 苦労もパンがあればたいしたことない”（筆者の諺辞典，諺 455 を参照），“Los duelos con pan se sienten menos. パンがあれば、苦労もそんなに感じない”など。
- コバルビアスの宝典に見られるのは“Los duelos con pan son menos. 苦労もパンがあれば、たいしたことない”（何故なら苦労と貧乏の両方は誰も我慢できないから—コバルビアス）である。
- スバルビィ諺辞典には“Los duelos, con pan son menos, o buenos. 苦労もパンがあれば、たいしたことない、或は楽ちん”（財産，収入があれば，苦労，骨折りも我慢できる，また，結果として，償いがあれば，今までの骨折りも忘れられるということ—スバルビィ）
- 例題：ドン・キホーテ第二部 55 章，島からドン・キホーテがいる宮殿に帰る途中，サンチョはろぼと一緒に深い穴に落ちてしまう，ひっくりかえっているろぼに一切れのパンを与えながら，サンチョがこう言う，“—Todos los duelos con pan son buenos. 悩み苦しみ，パンが妙薬”（続編三，高橋正武訳）筆者の諺辞典，諺 455 にすでに引用してあるが，第二部 13 章でも，サンチョが森の騎士の従者にこう言っている，“...， pues los duelos, con pan son menos. 悲しみも，パンがあるなら堪えられるって言うだから。”（続編一，永田寛定訳）

1607. todos los ojos no lloran en un día.

どんな眼も いち日では 泣きつくせない

- 他人の災難を見て笑った人に向かって，あなたにもいつかそういう日が来ますよという意味をこめて言う。（バロス）

- 類義の諺には “A cada puerco le llega (o viene) su San Martín. どこの豚にもサン・マルティンの祭日がやって来る” (誰にでもいつかは自分が犯した罪や、間違いを償う日が必ずやってくる, 筆者の諺辞典, 諺 8 を参照), “No hay plazo que no se cumpla, ni deuda que no se pague. 必ず, 期限はいつかは切れるし, 支払われない借金はない”, “Hoy por ti, mañana por mí. 今日は人の身, 明日は我が身” (人ごとだと思って見ていることは, いつかは自分の身にも起こるものである, 筆者の諺辞典, 諺 695 を参照) などがある。
- 日本の諺には, 諺 695 の訳以外に “昨日は人の身今日は我が身”, “人の事は我が事”, “人の上に吹く風は我が身に当たる” などがある。

1608. Todos los refranes habían de estar escritos con letras de oro.

どんな諺も 黄金の文字で 書かれるべきである

- 諺とは, 人々の豊かな経験と思索から生み出された短い名言で, そこには福音書のように真実が述べられている。それは, われわれの人生を間違いなく生きるための的確な助言と忠告で紡がれている。
- コレアス諺集には, 見出しの諺とともに次の諺が見られる, “Todos los refranes son verdaderos. あらゆる諺は, 真実である”
- すでに筆者の諺辞典には, 詳細な説明とともに次の諺が収載されているので参照して下さい; “El que se viere solo y desfavorecido, aconséjese con los refranes antiguos. 一人っきりで, ひき立てのない者は, 古いことわざを調べなさい” (諺は, われわれに助言と訓戒を与えてくれるから—諺 504), “No hay refrán que no sea verdadero. 真実ではない諺はない” (現代まで伝えられてきた諺には, 究極的には人生如何に生きるべきかという知恵が詰めこまれていて, われわれの貴重な指標となる—諺 1145), “Los refranes son evangelios chiquitos. 諺とは, 易しい福音書である” (真実と人間の経験が内包されている諺は, 常に手許に置かれて読まれている聖書と同じような尊い金言である—諺 1477) など。

1609. Todos somos hijos de Adán y Eva.

われわれはみんな アダムとエバの子孫である

- われわれは、全て同等である。何故なら同じ素姓の生まれであるから。(スバルビィ)
- コレアス諺集並びに、スバルビィ諺辞典には次の異表現がある、“Todos somos hijos de Adán y Eva, sino que nos diferencia la seda. 社会的な地位はそれぞれ違っていても、われわれの生まれは同じである”(ここで使われている<seda—絹>とは、人が社会に占める地位をいう)
- 見出しの諺の“Todos somos...われわれはみんな...”は、勿論キリスト教世界の住人のことである。“Adán y Eva—アダムとエバ”は、旧約聖書、創世記にこう述べられている；“Cuando Dios creó al hombre, lo creó parecido a Dios mismo; hombre y mujer los creó, ...神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。(1-27) Entonces Dios el Señor formó al hombre de la tierra misma, y sopló en su nariz y le dio vida. Así el hombre comenzó a vivir. 主なる神は、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。(2-7) El hombre llamó Eva a su mujer, pues ella fue la madre de todos los que viven. アダムは女をエバ(命)と名付けた。彼女がすべて命あるものの母となったからである。(3-20-21)”
- 例題：セレスティーナ第9幕、生まれつきの家柄の違いを説くカリストの従者に向かって女が諺を引用してこう言う，“,,,,,<Las obras hacen linaje, que al fin todos somos hijos de Adán y Eva.> <Procure de ser cada uno bueno por sí, y no vaya a buscar en la nobleza de sus pasados la virtud.> どういう行いをするかによって、家柄がきまるんだよ。結局あたいらは、みんなアダムとイブの子どもなんだからね。めいめいが、自分でよくなるように、つとめりゃいいのさ。ご先祖さまが貴族だったことに値うちがあるみたいに、思わなきゃいいのよ。”(魔女セレスティナ、大島正訳)

1610. Todos son liberales de lo ajeno.

みんな 他人のものには 気前がいい

- 他人のものを使ったり、利用して自分の務めを果たすこと。或は、人に忠告したり、

諫めたりはするが、実際には、手を貸そうとしないことを言う。

- 類義の諺には “A buen salvo está el que repica. 警鐘ならず者に、火の粉はかからぬ” (自分の身に火の粉がかからない場合には、何とでも忠告したり、警告できる— 筆者の諺辞典, 諺 4 を参照), “Del dicho al hecho hay gran trecho. 言うことと、行うことには大きなへだたりがある” (口で言うのはやさしいが、それを実行するのは難しい— 同諺辞典, 諺 391 を参照), “No entra en misa la campana y a todos llama. 鐘はミサに行かないが、みんなに呼びかける” (ためになる説教はするが、それを実行しないこと), “No es lo mismo predicar que dar trigo. 説教するのと、小麦を上げるのは、同じではない” (同諺辞典, 諺 1089 を参照) などがある。
- 前者の意味では “人の禪で相撲取る”, “人の提灯で明かりとる”, “他人の念仏で極楽参り” などの日本の諺がある。また、後者と類義の諺には “高みの見物”, “対岸の火事”, “山門から喧嘩見る” などがある。

1611. Tomar el rábano por las hojas.

大根を 葉っぱをつかまえて 引っこ抜く

- 物事をあべこべにとること。(コレアス) 口語的表現で取り違える, 誤解することをたとえていう。
- スペイン王立アカデミー辞書: “Tomar alguien el rábano por las hojas. 完全にあらゆる事柄についての解釈とか行いを取り違えること。”

1612. Tomar las de Villadiego.

あわてて逃げる

- 人が窮地, 困難から逃げ出す時にいう。(コレアス)
- 次のような異表現が宝典 (コバルビアス), コレアス諺集にそれぞれ見られる; “Tomar las calças de Villadiego. ズボンを手に取って逃げ出す”, “Tomó las de Villadiego. あわてて逃げる”
- コレアスによると, ここにでてくる “Villadiego” は, ある危険から逃げ出した者か, 牢屋から逃げた者の名前で, それでこのような諺になったのであろうというが, 確かなことは分からないらしい。
- コバルビアスによると, “この諺はセレスティーナの作者 (Fernando de Rojas-筆者)

により正式に諺として見なされたが、その典拠は明らかではない。Villadiego という名の者が、何か窮地に追い込まれて脚絆を巻くひまもなく、それを手に取りあわてて逃げだしたにちがいない。<Calças-calzas>とは、<以前は、脚を保護するゲートルで、くるぶしとふくらはぎに巻きつけられた。>

- スペイン王立アカデミー辞書：“Coger, o tomar, las de Villadiego, tomar calzas, o las calzas, de Villadiego”とは、口語的表現で“ふいにいなくなること、普通は、窮地から逃げ出す意味”
- 例題：セレスティーナ第12幕、主人の密会の間、その屋敷を見張っている従者二人の間の会話で、一人が他方に向かってこう言う、“Apercibete; a la primera voz que oyeres, tomar calzas de Villadiego. 用意をしておけよ。お前が、最初の声を聞いたら、さっさと逃げ出すんだぜ。”(魔女セレスティナ、大島正訳)

1613. Tornaos a vuestro menester, que zapatero soliades ser.

靴屋は 靴屋に戻ればよい

- 狭義では、人は何事においても自分がよく通じていることにかかわっていればよい、専門家は、自分の専門分野に、職人は自分の職に専心すればよい、また、広義では、よく知りもしない他人の事に余計な口を挟むなということ。
- コレアス諺集には見出しの表現の他に“Volveos a vuestro menester, ……”という異表現もある。どちらも直訳すると“自分の仕事に戻りなさい、靴屋は靴屋に”となる。
- 類義の諺には、前者(狭義)では、“Bien se está San Pedro en Roma. 聖ペトロは、ローマにいれば安全”(人は、本来居るべき場所に居るのがよい—筆者の諺辞典、諺139を参照)、“Zapatero, a tus zapatos. 靴屋は、靴にかかわっていればよい”(諺1716を参照)、“El que las sabe, las tañe. 鐘は鳴らせる者が、鳴らすがいい”(ある事に精通している者だけが関わるべきで、そうでない者は口を挟むなということ—筆者の諺辞典、諺482を参照)などがある、後者(広義)では、“Cuida de tus duelos y deja los ajenos. 自分の頭の蠅を追い、他人のことに干渉するな”(同諺辞典、諺362を参照)、“No quieras perder el seso por tu vecino necio. 隣の愚か者のために、かっかするな”(直接関わりのない事柄には、でしゃばるな—同諺辞典、諺1166を参照)、“No te hagas mandador donde no fueres señor. 主人でないと

ころでは、命令するな”（よその家で差しでがましい行為をしたり、命令したりするな—同諺辞典、諺 1179 を参照），“Oye misa y no cuides si el otro tiene camisa. 人がシャツを持っているかどうかを心配するより、ミサを聞くがよい”（他人の心配をするより、まず自分の義務を果たすがよい、ここでも Oye-otro, misa-camisa という頭韻、脚韻を含んでいる—同諺辞典、諺 1226 を参照）などがある。

- 類義の日本の諺には、一連の次のようなものがある；“馬は馬方^{うまかた}”，“餅は餅屋”，“人は道によって賢し”，“船は船頭に任せよ”，“病いは医者歌は公家”など、本職は本職だけのことはあるから、そのことに関しては任せるがいいという意味。また、他人のことにあれこれ干渉するなという意味では，“人の頭の蠅を追うより己の頭の蠅を追え”，“隣の疝氣^{せん}を頭痛に病む”などがある。

1614. Torres más altas cayeron.

いちばん高い塔が 倒れる

- 栄華を極めた者が、驕り、思い上がった振る舞いをするると必ず滅びるのが世の常であるから何事にも心してかかれと警告している。
- 同義の諺には “El que está en pie, mire no caiga. 立っている者は、ころばぬように気をつけろ”（人の運命は変わりやすいものであるから、今栄えている者は十分に注意しなければならないという戒め—スバルビィ諺辞典），“No andes con soberbia sobre la tierra, porque serás el primero que caiga debajo de ella. 地上では思い上がった振る舞いをするな、そうしないと、大地の下に落ちる最初の者となるであろう”（筆者の諺辞典、諺 1059 を参照）
- ここでは、脚韻 “Torres-, más-altas” をそろえるという修辞法が使われている。
- “驕る者久しからず” という言葉は日本でもよく聞かれる。人の世の無常、もののあわれ、或は、滅びゆくものに対して深く共感できる日本人は“平家物語”の有名な冒頭の文“祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。……驕れる人も久しからず、ただ春の夜の夢ごとし”に涙するのである。

1615. Tortas y pan pintado.

なんの造作もない

- スペイン王立アカデミー辞書：“Ser algo tortas y pan pintado.” とは、口語的表

現で、1) 以前の被害、骨折り、不愉快さ、出費、失敗などが、比較にならないほど少なく、たいしたことがない。2) たやすいこと、なんの造作もないこと。

- イリバレン (格言の由来) によると；“<Pan pintado>とは、結婚式やパーティでだされるパンが普通のパンとは異なり、パンの上側が飾り模様で描かれている。すでにこの表現は、1434年には見られる。パンを焼く前に手で、或は、鋳型でパンに飾り模様をつけるのである。<No ha de ser todo tortas y pan pintado. 毎日が結婚式ではない—たいしたことはない骨折り仕事にぐちをこぼす者に対する警告をあらわしている口語的表現。>”
- 例題：ドン・キホーテ第二部 17 章、道中に出くわしたライオンつかいに、二匹のライオンが入れられている檻をあけろとしつこく迫るドン・キホーテに、サンチョは目に涙をうかべて、そんなくわだてはやめてくれ、これにくらべたら、“.....habían sido tortas y pan pintado la de los molinos de viento y....., todas las hazañas que había acometido en todo el discurso de su vida. 風車に立ち向かったことも、.....つまり、今日までにやってのけたすべての手柄が、画にかいた餅とパンにひとしい.....”と取りすがった。(続編一、永田寛定訳)
- スペイン語の“Pan pintado—描かれたパン”とは、すでに上記にあるように、“飾り模様が描かれているパン”のことでもちろん食べられるし、それも結婚式のように特別な宴席で供されるパンである。表現が類似している日本語の“絵に書いた餅”とは、絵に描かれた餅のことで、実際には食べられないところから観念的、空想的なものは役には立たないことをたとえている。

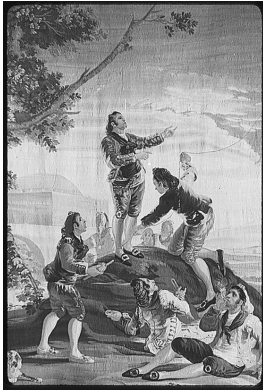
REAL MONASTERIO DE SAN LORENZO DE EL ESCORIAL
PATRIMONIO NACIONAL. TAPICES



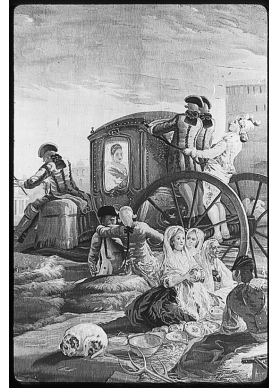
Neptuno calma a la tempestad.
Tapiz s. XVIII. Rubens.



Caza de la Liebre.
Tapiz s. XVIII. Anglois.



La Cometa.
Tapiz s. XVIII. Goya.



El Cacharrero.
Tapiz s. XVIII. Goya.



El Toro enmaromado.
Tapiz s. XVIII. Bayeu.



Riña en la Venta Nueva.
Tapiz s. XVIII. Goya.